

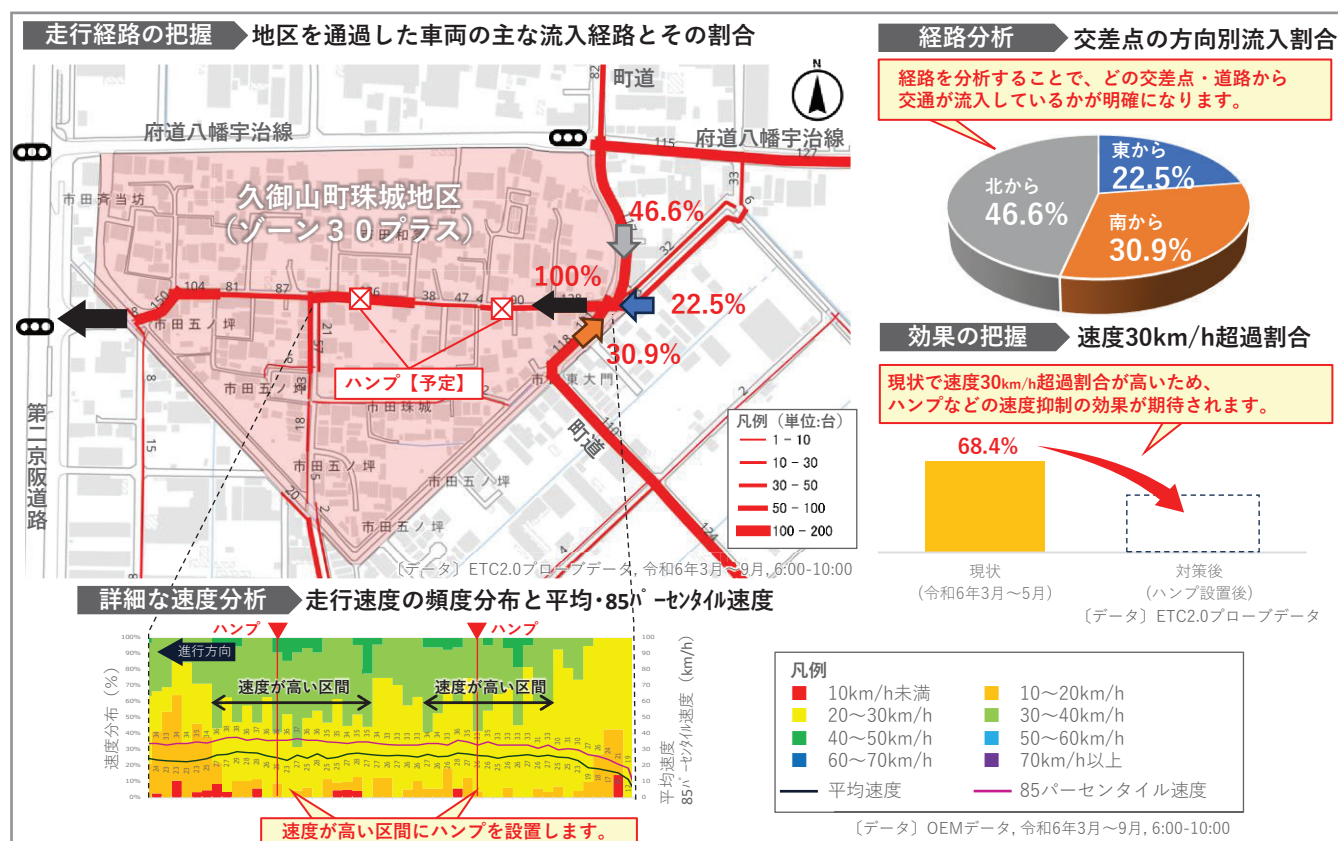
事後から予防的な交通安全対策への転換

「交通事故」は事故発生箇所に対する事後的な対策だけでなく、事故リスクがある箇所を把握し、予防的な対策を講じることが必要です。ITSスポットや民間OEMが収集する「速度データ」や「急加減速データ」は、生活道路において車の速度が速い箇所や急ブレーキが多く発生している箇所などの事故リスク箇所を容易に可視化できます。また、これらのデータは国や府県、市町村が管理する道路の別にかかわらず、面的に取得して活用することも可能です。これを用いて、整備局で周辺エリアの面的なデータ分析を行い、地域の交通安全対策を継続的に支援しています。

事故リスクの分析

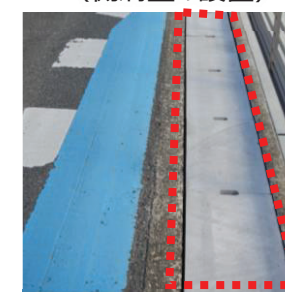
くみやまちょうたまき
京都府久御山町珠城地区

交通安全対策の検討



入口部の
看板設置

歩行空間確保
(側溝蓋の設置)



【関連ページ】生活道路対策事例

※ゾーン30プラス：最高速度30km/hの区域規制と物理的デバイスとの適切な組合せにより、速度や抜け道として通行する行為の抑制等を図る区域（ゾーン）を定めたもの